

2019. 4

事務局 (地独) 京都市産業技術研究所 デザインチーム (担当:比嘉, 竹浪, 木戸)  
kyotonokogei@tc-kyoto.or.jp  
〒600-8815 京都市下京区中堂寺粟田町91  
TEL:075-326-6100(代表) FAX:075-326-6170(代表)

# No.16 京都工芸研究会便り

## 1. THE 事業報告 特大号!

2018年度は「事業企画チーム」を中心に数々の新しい事業を企画し実施してきました。そこで得たものを会員の皆様にお伝えするのに通常の「便り」ではちょっと足りない…。ということで、No.16は、紙面を豪華2倍に拡張、「特大号!」としました。少しでも各事業の雰囲気伝わればと願っております!

2019年もさらにパワーアップして事業企画を進めます。会員の皆様の積極的なご参加をお待ちしています!

### ■京都工芸研究会 presents トークセッション「工芸な人々」 2/18(月)



師匠としてなにを弟子に伝えるかを熱く語る。象嵌屋小野 小野氏と増田氏

2月18日に、「MTRL KYOTO(マテリアル京都)」において、工芸にまつわるトークセッション「工芸な人々」を開催しました。

「工芸の作り手が、この先どう生き残っていくべきか?」をテーマに、カフェにて会員外の一般のお客様にも開かれたトークセッションという形式は、京都工芸研究会として初の試みで不安もありましたが、フタを開けると60名以上のご参加で大盛況でした。

京都の様々な伝統工芸の作り手たちが一堂に会し、“職人目線の工芸”をオープンに語り合うことで、シリアスな課題には緊張感が漂い、ここだけの話には爆笑も巻き起こるなど、今までにないほど充実した内容となりました。

参加いただいたお客様にはもちろん、会員にとっても、いわゆる“伝統工芸職人”というステレオタイプな人物像を打ち破った魅力を伝えられたのではないのでしょうか?

ところで、ご登壇いただいた方々からは「まだまだ言い足りない!」お客様からは「まだまだ聞き足りない!」という嬉しいお叱りもいただいています。その後の反省会や委員会でも「第二回開催」待望のご意見も多いので、会員の皆様も次年度開催に向けて楽しいエピソードを貯めておいてくださいね!

#### トークセッション「工芸な人々」概要

日時: 2019年2月18日(月)  
19:15~21:15

場所: マテリアル京都  
(京都市下京区本塩竈町554)

参加者: 61名  
工芸研究会会員 24名  
会員以外(伝統産業従事者、会社員、学生) 37名

テーマ: 「デジタルとアナログの交わる時代」  
「伝統工芸と知的財産」  
「新しい徒弟制度とこれからの職人という働き方」



知財について発言。左から晋六黨 京谷氏、陶泉黨 谷口氏



3名のゲストからお話を聞く。左から、京友禅 川邊氏、金彩加工 竹中氏、木工芸 近藤氏



会場の雰囲気は終始熱気に溢れていました。

## ■ 播州打刃物・そろばん産地見学会(兵庫県小野市) 3/12(火)

## 8:00 京都市産業技術研究所に集合, バスにて出発

3月12日火曜日, 早朝の出発にもかかわらず, 参加会員10名様が時間通り集合くださり, スムーズに出発しました。休憩を含み2時間ほどの行程ですが, 各訪問先の資料が配布され, 事前準備もバッチリです。

## 10:00 シーラカンス食堂 見学と講演 工芸プロデューサー・デザイナー小林新也氏

現地に到着するも普通の街中の道路沿い。「(思わず)なにもないよ?!」と声をあげそうになりましたが, そこに現れた小林新也氏に案内され, 「シーラカンス食堂」と「WORKSHOP」に到着しました。

デザインスタジオ「シーラカンス食堂」を主宰する小林新也さんは, ご実家が表具業を営んでおり, 幼少時から手仕事によるものづくりを見ながら成長。しかし, 徐々に受注が減少する様子を目の当たりにしながら, これからどうモノを作っていくのかを考えてこられたそうです。大学ではプロダクトデザインを学び, 素材を活かしたデザインのイノベーションを目指してきたということです。

「シーラカンス食堂」はデザイン事務所ですが, いわゆる色形を提供するだけのデザインではなく, デザイン・製造・販売とものづくりのすべての工程を手掛け, 作り手とともに課題解決しながら進めていくのがコンセプト。地元小野市のそろばんや打刃物など衰退が危ぶまれている地場産業をなんとかしたいという思いで活動されています。

小林さんの主要なプロジェクトの一つが播州刃物。需要が低迷し地元の刃物職人が弟子を取ることが難しい現状に対し, 職人による指導をもらいながら刃物作りを学ぶ学校, 工場(こうば)のような場として私財を投じて「WORKSHOP」を設立されました。総合的な技術を持つ(なんでもつくれる)職人いわば「昔の野鍛冶」のような職人を育てることを目標にしているとのこと。ナイフとボトルオープナーを合わせた「FUJIKNIFE」の製作販売とともに, クラウドファンディングや寄付も活用して運営しています。

並行して, 播州打刃物を知ってもらうため外国人にも理解できるようにグラフィックを工夫したパンフレットを作成したり, 海外の展示会場で研ぎのワークショップを開催したりと, 刃物ユーザーの裾野を広げる活動も展開しています。この播州刃物の他, 国内産地の素材を活用した商品ブランド「MUJUN」を立ち上げ, 大きな成果をあげておられます。

小林さんは, 時代の流れで消費構造が変わってきている今, 重要なことは, 産地の土台となる「自分たちの強み」を改めて確認することだといいます。しかし伝統ある産地ほどその土台を確認できていない傾向があり, 自らの商品や技術の強みを確認しないまま, 販路開拓や新商品開発をやろうとして失敗してしまう事例が多いのではないかと, とも感じているそうです。また, 行政の助成による事業については, 例えば展示会出展の際も展示方法に参加者の平等性が重んじられるあまり散漫な印象を与えて「何を売っているブースなのか」が伝えづらく, コンセプトの明確さがなくなりがち。平等にするのは展示方法ではなく, それぞれに最適な「売り先」を平等に用意するという考え方に変わっていくほうがうまくいくと指摘されました。

講演の後, シーラカンス食堂内のMUJUNの商品展示と「WORKSHOP」を見学し, 小林さんと意見交換しました。

12:00 昼食 (近隣にある「小野うどん よしくら」さんにて, 地元産小麦と玉子にこだわったうどんをいただきました)

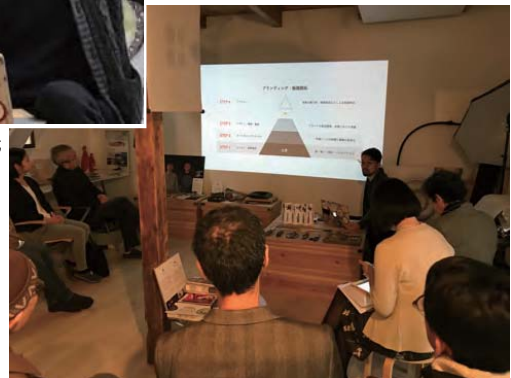


「WORKSHOP」外観



小林新也氏

「シーラカンス食堂」での講演





### 13:15 握鋏職人・水池長弥氏の工房を見学

水池さんは握鋏(にぎりはさみ)や日本剃刀の製作技術を保持しておられます。材料の鉄と鋼の棒から鍛造だけで握鋏を作り上げる技術は地域で唯一の職人であり、常にその道のプロ向けの仕事をしていました。

水池さんは需要が減少する中、後継者を作らず、技術の存続を諦めていたのですが、打刃物の後継者育成に取り組んでいた小林さんの粘り強い熱意の説得に呼応して弟子を一人受け入れ、さらに行政を巻き込んで、給与など待遇面の補助も得て、このほど後継者を育てる体制を整えたところです。

水池さんは組合を通じて顧客からの要望を聞き、鋏をその人に合った使い心地になるまで微調整を繰り返すという、非常に真摯で労を惜しまないものづくりをされています。



水池さん(左から3人目)の工房で話を聞く。握り鋏には大小さまざまなものがある



### 14:30 そろばんビレッジを訪問

そろばんビレッジ(株式会社ダイイチ)にて、会長の宮永英孝氏からお話を伺いました。小野市の地場産業である播州そろばんは、電子計算機が普及して受注が年間380万丁から14万丁に激減。その状況の中で産地をどうするか。計算機としてのそろばんではない、「暗算」の能力を鍛える教育機器として海外(例えば中東など)で「そろばん大会」などのイベントを活用した導入・普及に取り組んだということです。

小林さんと共に時計や教育グッズなど新しいプロダクトの開発やオリジナルそろばん作りのワークショップの仕組みづくりなども並行してすすめ、ものづくりとともに作る楽しさをイベント化した仕組みづくりを展開していられます。

同施設には年間3,000人の来場があり、その来場者が市内で食事をする、ほかの施設を見る、土産物を買うなど、地域経済に貢献するという大局的な視点に立ってプロジェクトを進めているとのこと。

オリジナルそろばんづくりのワークショップに参加しましたが、色とりどりのそろばんの部品をカラーコーディネートする面白さもさることながら宮永会長のトークが非常に軽妙で、楽しく忘れがたい経験となり「また来たい!」と思わせるといふこれも大切な仕組みとスキルだと感じました。



そろばんビレッジにて、会長の宮永氏から話を聞く。そろばんづくりワークショップにも参加

### 16:00 古代鏡展示館を見学

古代鏡展示館は古代中国鏡を中心とした千石コレクションを収蔵しています。歴史的、美術的に高い価値を有し、世界的にも大変貴重なものです。

今回は企画展「唐王朝の彩り」と常設展の古代鏡の数々を拝見し、鍍金、鍛金、彫金など非常に高いレベルの金属工芸技術を目の当たりにしました。なお、同館には会員の和銅寛(小泉さん)が製作を手掛けたレプリカとその製作工程記録ビデオが収蔵されており、小泉さんからの解説をいただき、技術への理解をさらに深めることができました。



古代鏡博物館とその展示室



### 19:00頃 無事に産技研帰着。お疲れ様でした。

【事務局より】モノのデザインもさることながら、プロジェクトに参加する人々が自分事として動いていく、いわば「人を動かす」事業に育てている小林さん。様々な事業を手掛けておられますが、成功している事例ばかりではないようで、既存の「組織の構造」や世代間ギャップの中で、全体の合意を得てプロジェクトを進める難しさやストレスもあるとのことでした。

今回の見学会は、小林新也氏というキーパーソンを軸にすることで、小野市という産地が持つ特徴と課題、そしてその解決に取り組むプロセスを系統立って学ぶことができました。伝統技術の復興にかける熱意・工夫を実感を伴って知ることができた実りのあるものでした。参加した会員さんからは「モノと共に人にお会い出来た事に、意味を感じた見学会でした」(象嵌屋小野 増田さん)、「機械化が進む中、手作りの良さを再確認出来ました」、「京都はたくさんの業種職種がありますのでなかなか特化することは出来ませんが、地方ではその地域で特化するモノを見出し、受け継ぎ、伝えていく事がとても重要であるし大切な事だと感じました。」(アトリエYOU 加藤さん)などの感想をいただいています。参加いただきました会員の皆様、ありがとうございました。

■ 第2回「デジタル3D技術活用講習会」 2/14(木),15(金)

産技研主催(デザインチーム担当)の3DCADソフトを活用したモデリングやデザイン検討,解析(強度解析や熱解析)の講習会。工芸研究会として共催しました。一昨年から半年に一度開催しており,今回で3回目となります。

前回同様に,伝統工芸分野と工業分野で開催。「器」と「栓抜き」を課題にモデリング講習と熱解析の実習を行いました。課題とは別に作成した3Dデータを元に光硬化性樹脂の3Dプリントを行って提供しました。デジタル3D技術は今やものづくりの現場では欠かせないものとなってきています。本講習会は来年度も実施を予定しています。ソフトウェアの基本的な操作方法や,3Dプリンタと組み合わせたものづくりへの活用方法について参加企業の皆様のニーズをお聞きしながら,取り組んでいきます。



左:作成した「器」に対し熱解析を実施。右:光硬化性樹脂3Dプリンタ Form2

■ 研究会共催事業

京都陶磁器研究会,京染・精練染色研究会,西陣織物研究会,京都市京友禅染(手描)技術者研修同窓会虹彩会,京都先端技術研究会

産技研は工芸研究会をはじめ各種業界で設立された特色ある10の研究会の事務局を担っています。

工芸研究会はこれらの他研究会や産技研が実施する講演会やセミナーで,相互に関連するテーマについては「共催事業」として開催しました(計5回)。

研究会間の異業種交流のきっかけとするべく新年度も引き続き実施します。会員の皆様もぜひ積極的なご参加をお願いいたします。



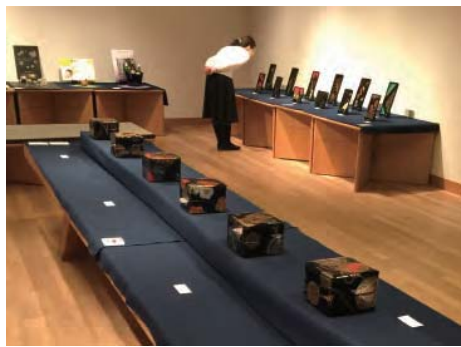
12/18【染織】、12/20【諸工芸】開催 特別講演会「明治の装飾工芸について」(共催) 【染織】講師 西陣織物館顧問 藤井健三氏 【諸工芸】講師 京都精華大学教授 佐藤敬二氏 主催:京都市京友禅染(手描)技術者研修同窓会 虹彩会

2/21 開催 第5回研究例会 「防災加工の意味と必要性」 講師:公益財団法人日本防災協会京都事務所所長 増田優人氏 主催:京染・精練染色研究会



2. 伝統産業技術後継者育成研修 漆工応用コース修了作品展(後援)

3/6(水)~10(日) 京都伝統産業ふれあい館 イベントルーム



今年度は,蒔絵技術を主に習得する「漆工応用コース」を開講し,重箱,椀,棗,盆(大・小),螺鈿パネル,自由課題,プレゼン演習の作品54点を制作,出品されました。1,270名もの多くの方にご来場いただきました。

盛りだくさんな課題に対し,研修生6名が本当に熱心に取り組んだことが伝わる作品ばかり。器物ごとによく練られ新鮮な感覚の図案に金銀粉をふんだんに使う京蒔

絵を効果的に活かしており,これだけのクオリティを1年間で仕上げたのか!と思うような素晴らしい出来栄でありました。また,ユーザーを想定したデザイン開発作品とそのプレゼンパネルの展示もありました。本研修で学んだことを基礎に京漆器業界を担い手となってほしいと心から願います。(作品の一部は産技研1階と5階エレベータ前に展示(来年3月まで)しています。来所の際にはぜひご覧ください。)

3. 第4回委員会

3/20(水)

今年度最終の委員会

これまでに実施した事業と予算執行状況の報告に対し審議,確認を行いました。

事業企画チームを中心に進めた本年度事業については,トークセッションや産地見学など,これまでない新しい取り組みであり来年度も継続してはといった意見がありました。

来年度,第1回委員会は5月31日(金)に,総会は6月下旬から7月上旬をめどに開催することを確認しました。

事務局より

- 2019年4-6月の主な予定
- 4/18(木) 18:00~20:00 竹編組勉強会(1)
- 4月中 事業企画チームミーティング(1)
- 5/16(木) 18:00~20:00 竹編組勉強会(2)
- 5/27(月) 14:00~15:00 監査
- 5/31(金) 15:00~17:00 第1回委員会
- 6月下~7月上旬 総会

つぶやいていいですか。

一昨年の秋に食べた柿の種を植木鉢に埋めておいたら,翌春になんと芽がでてきた!夏の間,元気に育ち高さ30センチ程になり立派な柿の葉を茂らせ秋には紅葉までしてみせてくれました。

暖かくなった先日,冬を過ごしていたその柿の木の細い枝から新芽が出てのを見つけました。柿の実が成るまでには8年かかりますが,今年やっと2年目のこの小さな木も葉っぱが大きくなれば,「柿の葉寿司」くらいはつくれるかもしれないとほくそ笑んでおります。(ひ)